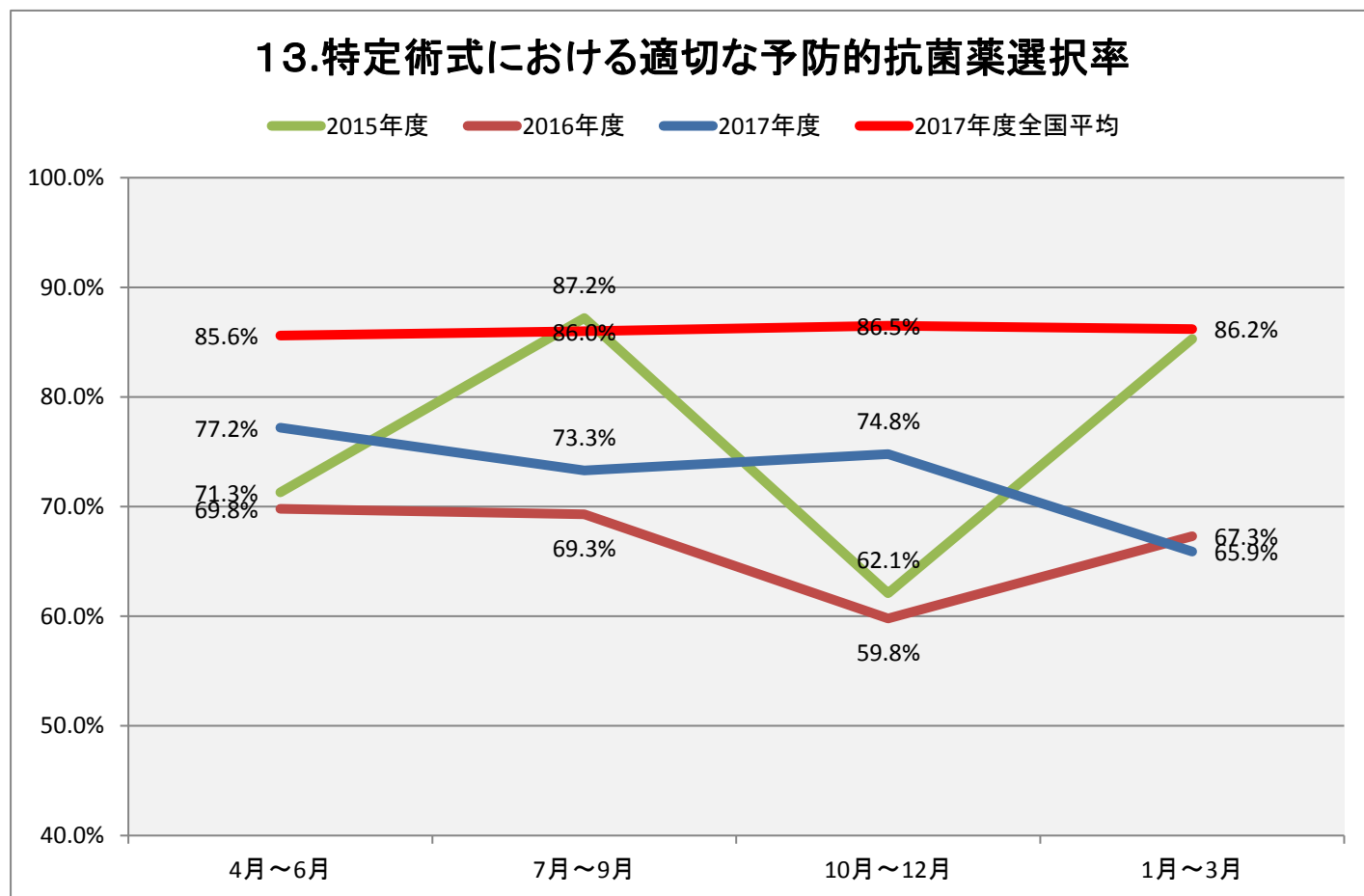


13.特定術式における適切な予防的抗菌薬選択率

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2017年度	77.2%	73.3%	74.8%	65.9%
2016年度	69.8%	69.3%	59.8%	67.3%
2015年度	71.3%	87.2%	62.1%	85.3%
2017年度全国平均	85.6%	86.0%	86.5%	86.2%

(2)指標の説明

手術後に、手術部位感染が発生すると、入院期間が延長し、入院医療費が増大します。その予防策の一つとして、手術前後の抗菌薬投与があります。手術開始から終了後2～3時間まで、体内の抗菌薬濃度を適切に保つことで、感染を予防できる可能性が高くなります。2015年度から採用された項目です。

(3)定義

分子: 適切な予防的抗菌薬が選択された手術件数
分母: 特定術式の手術件数

※特定術式・・・股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、大腸手術、子宮全摘除術、冠動脈バイパス術、その他の心臓手術、血管手術

(4)考察

選択率が低く推移しており、各診療科および院内感染防止対策委員会とともに、適正な抗菌薬の使用に努めていきます。